

「大切な情報を知らせてくれる生活支援ロボット」…B会場

一人暮らしの高齢者や、認知機能の低下が気になる高齢者は、今日の日付が分からなくなる、今、何をしようとしていたか分からなくなることがあります。こうした僅かな困難が積み重なると、在宅生活も難しくなります。そしてご本人も不安に悩まされていると、現場の専門家たちが報告しています。

福祉機器開発部では、NECのコミュニケーションロボット「パペロ」をプラットフォームとして、生活に欠かせない大切な情報を呈示し、それに伴う行動を促がす情報支援プログラムを開発しています。このプロジェクトは、認知機能の低下に伴う生活の困難をI R T技術・I C T技術と周囲の人の連携によって補い、より長く、自分らしく暮らしてゆける社会の実現をめざしています。このため、どんなロボットが適しているか、高齢者、有料老人ホ



写真 コミュニケーションロボット
PaPeRo(NEC)

ームや介護施設、福祉用具販売店、大学や研究機関と一緒に研究を進めています。これまでに、聞き取りやすい合成音声、対話のプロトコル、認知機能に応じた情報伝達の形態を検証しました。また1か月間、2人の高齢者による有効性評価実験も行われました。

必要な情報をきちんと得ることができれば、ご本人ができることが沢山あります。一緒に考えてみませんか。

「予定と日付が分かる電子カレンダー」…B会場

○認知症とは？

認知症では、脳神経細胞の大幅な減少等により、見当識障害（例：時間の流れや自分のいる場所が分からなくなる）や、記憶障害（例：夕食を食べたことや次の予定を忘れる）などが生じます。そのため、日付やスケジュールが分からなくなり、自分で生活を組み立てることや、予定に沿って行動することが難しくなります。認知症の軽度から中度の段階では、こうした脳の情報処理の障害を補うことで、自分の力を活かして生活することができます。

○電子カレンダーとは？

- ・LED版電子カレンダー：赤いLEDライトで、日付と曜日を知らせます。
- ・タブレット版電子カレンダー：コントラストの高い文字で、日付、曜日、時刻や予定を知らせます。

○機器の使用事例

一人暮らしのAさんは、曜日が分からないので、ごみ出しの日を間違えてしまうことがありました。電子カレンダーを使うようになって、いつでも曜日を確認できるようになり、正しい曜日にごみを出せるようになりました。

家族と同居しているBさんは、日付が分からないことが気になって、1日に何度も、家族に「今日は何月何日？」と尋ねていました。電子カレンダーを使うようになって、日付を自分で確かめられるようになり、家族への頻回な質問が無くなりました。

「統合失調症患者のための服薬カレンダー」…B会場

統合失調症の人の地域生活では、処方された通りに薬を飲むことが大切です。薬を飲まなくなると、再入院したり、外出できなくなったりするからです。支援ネットワークが充実してきましたが、服薬の拒否や中断、過量服用が後を絶ちません。抗精神薬は種類によって、頭に霧がかかったようになり、感情の起伏が激しくなったりしますし、社会的スティグマによって薬を飲んでいることを知られたくなかったり、「回復した」と強く感じて、服用を嫌う人が多いのです。

福祉機器開発部では、統合失調症患者が、自分の携帯電話やスマートフォンで服薬状況と体調変化の関係を確認できるように、服薬セルフモニタリングシステム（通称、服薬カレンダー）を開発しました。開発では、当事者の方たちとともに、分かりやすい表示画面やモニタリング項目等の仕様を定めました。また服薬時間を知らせるリマインドメールの本文やメール通知時刻を患者が自ら選定し、内容には普段使っている表現を用いました。5人の統合失調症患者が1か月間の有用性評価を行い、服薬アドヒアランスの向上、服薬に対する意識の向上といった効果が見られました。



写真 服薬カレンダー（背景色を、各実験協力者が決定）
図 本人用デバイスの表示画面、モニタリング入力画面

「発達障害のある大学生に対する キャリア意思決定支援のあり方に関する研究

－キャリアセンターで取り組める支援内容とは？－」 …B 会場

発達障害の診断や疑いがあり、大学で特別な配慮を受けている学生は毎年増加傾向にあります。このような中、発達障害のある学生の就職や卒業後の就職先での適応の難しさが課題となっています。

そこで、大学のキャリアセンターの支援者に対し、質問紙やインタビュー調査を実施し、「発達障害のある学生（疑いのある学生を含む）に対するキャリア支援の実態」を把握しました。

○質問紙調査から、キャリアセンターの支援者は、発達障害のある学生の特徴として、「情報処理能力の弱さ」に対する気づきが最も高いことが把握されました。

○そして、支援者が学生の「情報処理能力の弱さ」への気づきが高いほど、学生に「自己理解を促す支援」を実施している可能性が把握されました。

今後は、キャリアセンターの支援者が、発達障害のある学生に「気づき」、学生の「自己理解」を深め、学生の効果的な「意思決定」を支援していく上で、どのような取組が有効であるかを、ガイドに取りまとめる予定です。ガイドは、支援者にとって使いやすいものとなるよう、内容理解を深めるイラストを活用予定です。